

令和3年（2021）

■ 8月20日（金）

前報（8月6日）から2週間、相変わらず最高気温が35°を超える日がある一方で、台風の接近や前線の影響による雨天の日も続き、火責め・水責めの調査期間でした。

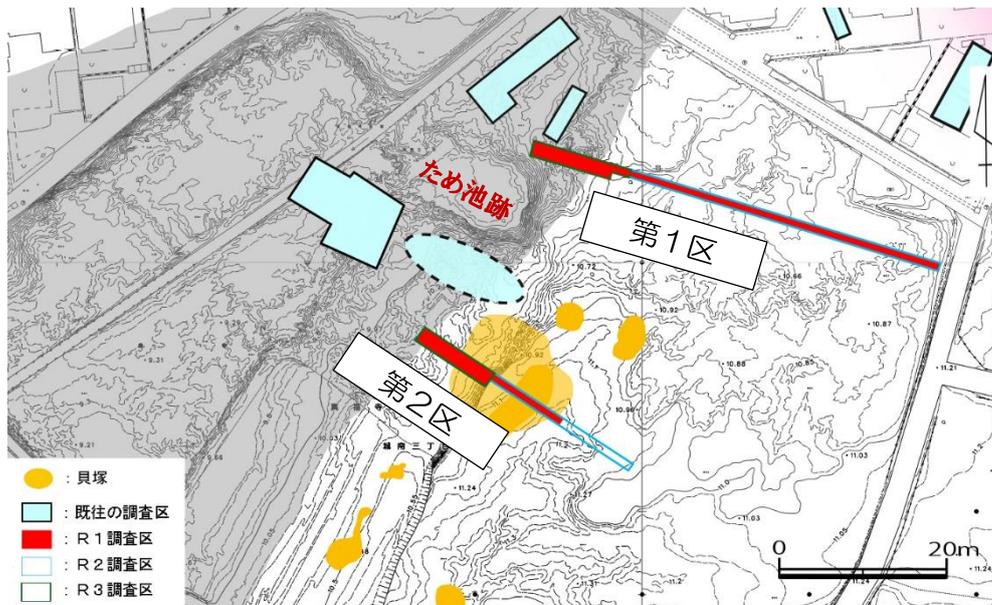


図1 調査区の位置

① 第1区（北側の調査区）の調査

調査区西側のローム質の黄褐色土層および、黄褐色土中に打ち込まれた杭の断ち割り（土層の断面調査）を行いました（写真1・2）。

この杭は、調査区西端で検出した一連の杭と比較すると、打ち込みも浅く、杭の色調も異なっていること、場所も少し離れているなど、違いが見られます。



写真1 黄褐色土層と杭の断ち割り（直線のライン）

令和3年（2021）



写真2 斜めに打ち込まれた杭

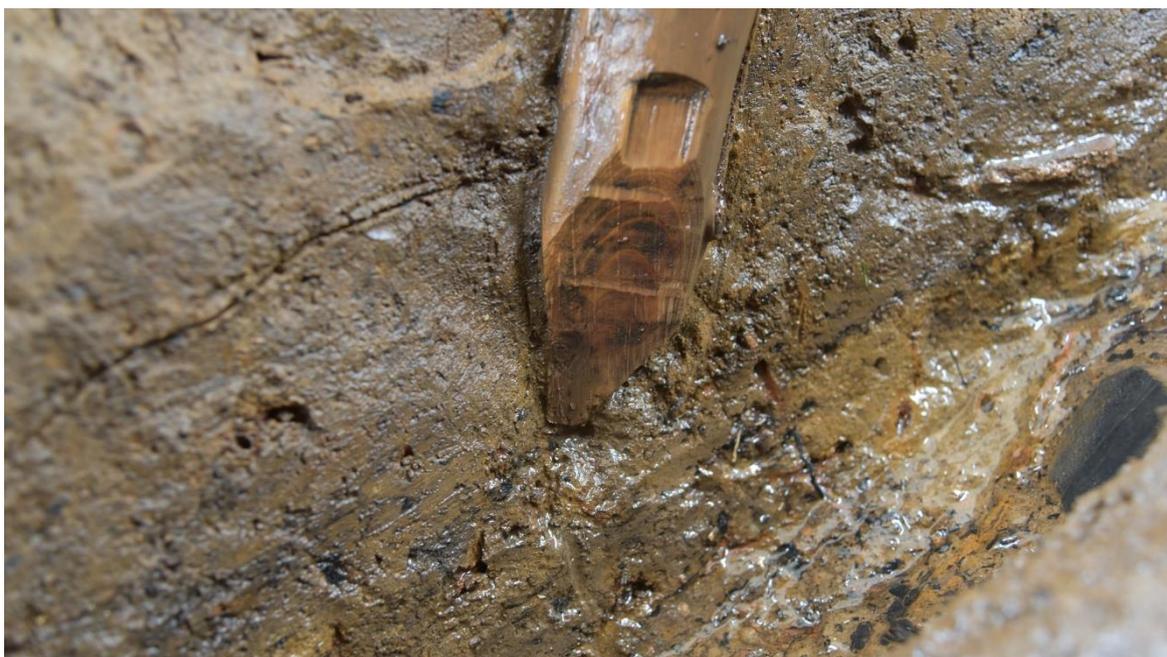


写真3 杭の先端部には鋭利な加工痕が
また先端部には鋭利な加工痕がみられます（写真3）。

ローム質の黄褐色土中からは、引き続き、晩期前葉～中葉（安行 3b～3c 式）の遺物
が出土します（写真4）。なお黄褐色土層は単層ではなく、色調の明暗によって、現在 7
枚に分けて遺物の取り上げを行っています。

令和3年（2021）



写真4 黄褐色土層から出土した晩期前葉～中葉の土器

現在、黄褐色土層の間にある暗褐色土層を掘り下げているが、ほぼ完形の皿形土器が出土しています（写真5）。



写真5 ほぼ完形の皿型土器